

CITY OF KITAKYUSHU

公共施設マネジメント

都市の再構築と
活力あるまちづくりに向けて





公共施設マネジメントは、市の基本構想・基本計画に位置づけられた行財政改革の重要な柱

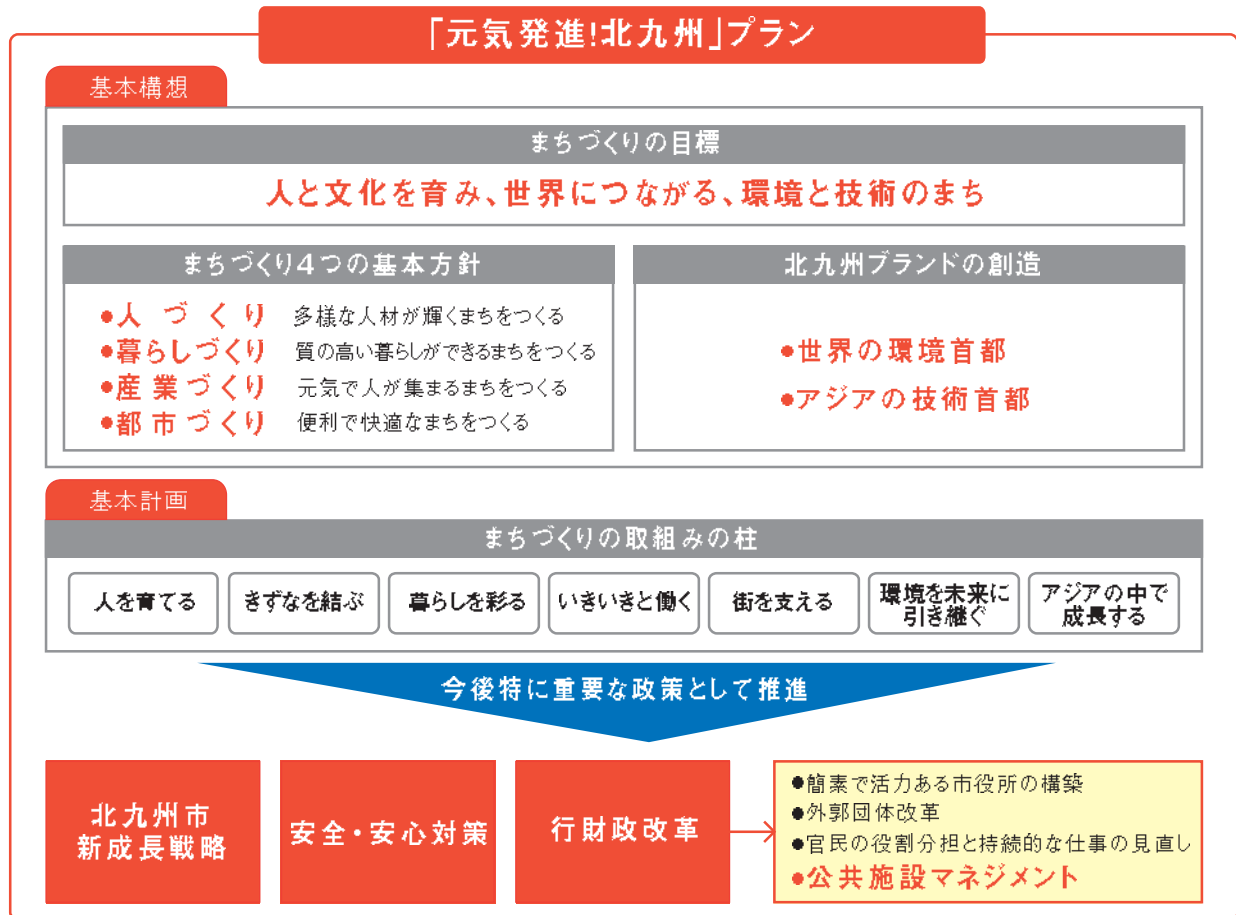
行財政改革を市政の重要な柱として位置づけ

本市の基本構想・基本計画「元気発進!北九州」プランは、平成20年12月に策定しました。

このうち、基本計画については、平成32年度を目標年次としており、「社会経済環境の変化等を踏まえて、おおむね5年間で計画の内容を見直し、必要に応じて変更すること」としています。

そのため、昨今の社会経済情勢の変化やこれまでの進捗状況を踏まえた今後の対応等に反映させるべく、平成25年12月に変更を行いました。

今回の変更では、「北九州市新成長戦略」、「安全・安心対策」、「行財政改革」の推進を特に重要な3つの政策として位置づけており、公共施設マネジメントは、行財政改革の重要な柱の1つとなっています。



公共施設マネジメントの必要性は全国共通

全国の自治体では、厳しい財政状況が続く中、過去に整備された公共施設が大量に更新時期を迎えるという共通の課題に直面しています。

今後、人口減少等により公共施設の利用需要が変化していく中、公共施設の全体を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うなどの「公共施設マネジメント」の取組みが必要になっています。

○公共施設／市営住宅や学校などの公共建築物。道路、港湾、上下水道などの社会基盤は除く。

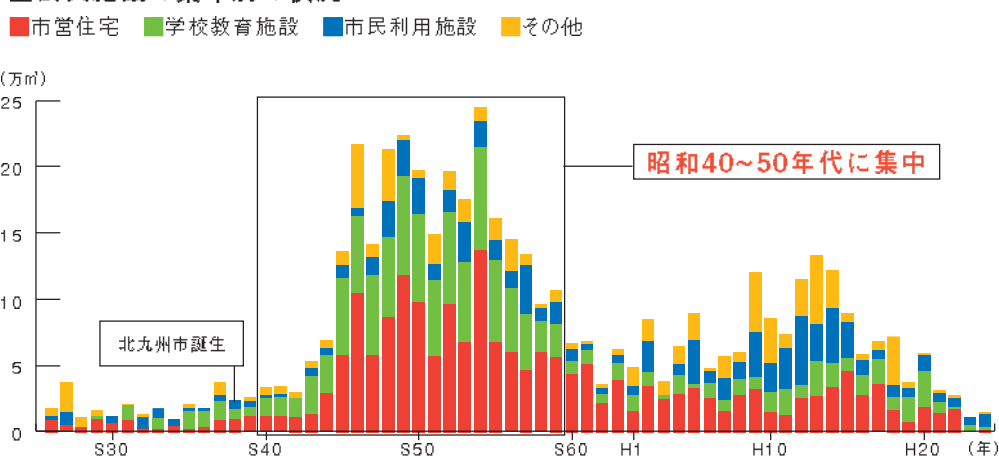


北九州市民の1人当たりの公共施設保有量は政令市で最大

昭和40年代から50年代に集中して整備

本市は昭和38年、五市(旧門司・小倉・若松・八幡・戸畑)の対等合併によって誕生しました。当時は、高度経済成長に支えられ、全国で積極的な社会資本整備が行われており、本市においても急ピッチで公共施設等の整備が行われました。そのため、本市の公共施設が整備された時期は、昭和40年代から50年代に集中しています。

公共施設の築年別の状況 出典：北九州市総務企画局(平成26年3月)



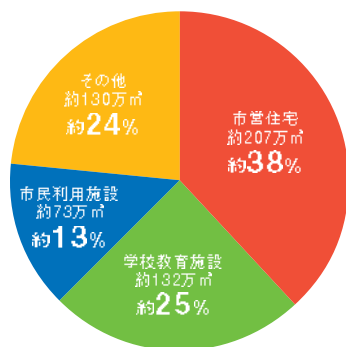
総延床面積は約542万㎡

本市が保有している公共施設は、約1,800施設、総延床面積は約542万㎡です。市営住宅と学校教育施設が全体の6割以上を占めています。

公共施設の保有数 出典：北九州市総務企画局(平成26年3月)

- 市営住宅 約207万㎡
- 学校教育施設 約132万㎡
- 市民利用施設 約73万㎡
- 市民文化系施設 約25万㎡
- 社会教育系施設 約10万㎡
- スポーツレク施設 約13万㎡
- 保健・福祉施設 約9万㎡
- 子育て支援施設 約7万㎡
- 産業系施設 約9万㎡
- その他 約130万㎡
- 行政系施設 約25万㎡
- 特別会計施設、その他 約105万㎡

合計 約542万㎡



人口1人当たりの保有量は政令市で最大

本市が保有している公共施設を他の政令市と比較すると、市民1人当たりでは約5.0㎡と政令市で最大であり、政令市平均の約3.3㎡と比べると約1.5倍になっています。

一人当たりの保有量比較

出典：国勢調査および各市決算資料(平成22年度)

①北九州市	5.0㎡	⑩仙台市	3.1㎡
②大阪市	4.7㎡	⑪札幌市	2.9㎡
③神戸市	4.7㎡	⑫岡山市	2.8㎡
④名古屋市	4.4㎡	⑬千葉市	2.7㎡
⑤福岡市	3.6㎡	⑭堺市	2.5㎡
⑥広島市	3.4㎡	⑮川崎市	2.5㎡
⑦浜松市	3.3㎡	⑯横浜市	2.3㎡
⑧京都市	3.3㎡	⑰相模原市	2.3㎡
⑨新潟市	3.3㎡	⑱さいたま市	2.1㎡
⑩静岡市	3.2㎡	平均	3.3㎡